㈱谷元工業
代表取締役

谷元 法男

PICK UP
THE PERSON

KEY WORD

仲間
— nakama —

谷元社長は、幼少のころより様々な角度から物事を検証し、
既成概念に囚われない「物の見方」にこだわってきた。
その信念から型通りの学校教育が合わず学校を中退して独自の道を歩み、
様々な仕事を模索して出会ったのが、現在手掛ける鍛冶・溶接工事業であり、
力強く事業を支えてくれる仲間であったという。
今は仲間たちの視点がより多角的な物の見方を提供してくれる。
「何より、皆は大事な存在で、ずっと一緒に働いていたいと思えるのです」。
心より信頼を寄せることのできる仲間と共に、社長は歩んでいく。

**「今後も皆と楽しく仕事がしたい——
そう思える大切な仲間に囲まれています」**

© 2020 USP-Management Co., Ltd.

企業と人 地域を育む

代表取締役

谷元 法男

株式会社 谷元工業

愛知県豊橋市東森岡二丁目３番地21

URL：http://tanimoto-industry.com

&.Fe Design

URL：https://and-fe.com

about &.Fe Design

▼対談で訪れた事務所は、一見、喫茶店かと見紛うほどのお洒落な建物。実際、間違えて入って来る人も時々いるという。アイアン家具にアイアンの手すりや階段、雑貨の数々。これらは同社の一部門『&.Fe Design』で作られたものだという。

▼建築の鉄骨は綺麗に仕上げても、外壁やボードを貼れば見えなくなってしまう。ならば今までの溶接技術を使って「見える仕事もしよう」と始めたのが、アイアン家具や設備の製作だった。事務所に置かれたテーブルや椅子は細部にわたって完成度が高く、プロの矜持が窺える。

▼同事務所はショールームとしても使われており、ここを訪れる人が現物を見て注文していくこともある。現在『&.Fe Design』事業部の売上は、会社全体の３割に迫り、最近では店舗デザインの設計段階からの依頼も来ているそうだ。

© 2020 USP-Management Co., Ltd.

鍛冶・溶接・鉄骨工事から外構工事、建物修繕まで幅広い分野で力を発揮する職人集団

建築物の構造を支える鉄骨工事をメインに手掛け、その周辺の塗装、外構、住宅リノベーション、太陽光発電にも幅広く対応している『谷元工業』。さらにアイアン家具や建築金物の製作施工を行う『&.Fe Design』も手掛けるなど、果敢に他分野に挑戦している。本日は黒田アーサー氏が同社を訪問し、谷元社長にお話を伺った。

――まずは、谷元社長の歩みから伺います。

私は幼少のころより様々な物に興味を持っていました。たとえばものづくり。ビデオデッキやテレビなどの中を開けて仕組みを知ることが楽しく、家電の分解や組み立てをしたり、仕組みが分かれば故障を直したり。料理や絵画に傾倒することもありましたし、サッカーやバスケットボール、スキーやスキューバダイビングなど、スポーツにも打ち込んできました。

――実に多才ですね！

ただ、学校生活に関しては教育が性に合いませんで、高校を中退しているんです。型にはまった教育、人を見た目で判断してしまう風潮、筋の通らない先生の指導方針……当時置かれていた環境が私にとっては理不尽で意味がないものに思え、「これ以上、この学校で学ぶことはありません」と先生に告げて学校を辞め、自分の生きる道を探すようになりました。

――思い切りましたね。その後は、どのような道に進まれたのでしょう。

最初は父の知り合いの工場に勤務。自動車のバンパーをラインで製造する仕事でした。私は半年ほどで工程を覚え、それからは外国人スタッフの指導係を担当することに。ただ、そちらの仕事もしっくりこないところがあり、会社を辞めて絵を描く旅に出たのです。私は絵画が好きでこだわりが強く、美術の先生からも「人と違った絵を描く」と言っていただいたりして、そちらの道を追求したいと、山に登って風景画を描いたりしていました。絵の旅を終えた後も、様々な仕事を経験しつつ、自分が納得できる道を模索していましたね。

――多くの人が自分の道を模索するものですが、社長は模索の仕方が特異ですね。

そうですね。実は私は子どものころから、様々な角度から物を見ようと心がけていたんです。一方向から見ると四角の物体も、別方向から見ると丸に見えたりすることがあるでしょう。そうした別の角度からの発見が私にとっては大切なこと。だからとことん別の角度から見ることにこだわりますし、「変わっている」と言われることもありますが、私にとってそれは最大の褒め言葉と思っているのです。

――既成の枠に囚われず、徹底して模索を続けてこられたわけだ。そうして辿り着いたお仕事はどのようなものだったのでしょう。

鍛冶工事・溶接工事の仕事です。建物の鉄骨組みは1ミリのずれも狂いも許されず、その良し悪しが全体的なバランスや耐震・耐久性に大きく関わってきます。私は幼少のころよりものづくりや細かな作業が好きでしたから、そうした作業が性に合いましたし、「お客様に高品質のサービスを提供したい」との想いで励むことができました。やがて独立して始めたのがこの『谷元工業』につながる個人事業。現在は、熟練の職人による質の高い鍛冶工事・溶接工事・鉄骨工事を行う他、外構工事や建物の修繕工事、アイアン家具・建具なども手掛けており、一般ご家庭の「困った」に即時ご対応し、解決できる点が強みと自負しています。

――実に幅広く手掛けておられますね！　お仕事において、最も大切にされていることは何ですか。

仲間たちですね。幸い、独立当時からご愛顧下さる方が何人かいて、1年もするとスタッフを雇用し、その仲間たちが力強く支えてくれて順調に歩むことができたんです。その後リーマン・ショックが建設業界を襲い、当社も危機に陥りましたが、その際まず考えたことは、「これまで支えてくれたスタッフたちを解雇するようなことは、絶対にしてはならない」ということでした。むしろここが踏ん張りどころで、ここを乗り越えてまた皆でバリバリ仕事をしようと。当時は家計がピンチで、家では喧嘩の毎日でしたが（苦笑）、「絶対に立て直す」との想いで危機もなんとか乗り越え、今は順調に歩むことができています。

――ほう！　我が道にこだわってきた社長が、仲間たちと歩むことを選んだのですか。

そうなんです。私は前述した通り多角的に物を見ることにこだわってきたのですが、今は仲間たちの視点がそれを助けてくれます。スタッフを集め、皆の意見を集め、様々な角度から検証して作ったほうが、断然良いものができあがります。ですから、周りの人の視点は今私が大事にしていることの一つ。そして何より、仲間たちに対する敬意や感謝の念が深く、今後も皆と一緒に楽しく仕事がしたいとの想いで日々働くことができているんですよ。今日はこのようにスーツ姿ですが、普段の私は皆と同じ作業着で一緒に頑張っています。

――共に歩み、苦楽を共にする。仲間たちは掛け替えのない宝物ですね。お話も尽きませんが、最後に今後の抱負をお聞かせ下さい。

ここ豊橋から、日本をもっと盛り上げていきたいと考えています。東京オリンピック後も日本ブランドを世界に発信していけるよう、当社も豊橋から関東、関西に攻めていく。そしていつかは世界にも打って出ていきたいというのが、私が今描く今後の展望です。

GUEST COMMENT

ゲストインタビュアー　**黒田 アーサー**

「事業がピンチに陥った時も絶対にスタッフを解雇してはならないとの信念で励んでこられた谷元社長。仲間たちを想う気持ちの強さがお話からよく伝わってきましたよ！」